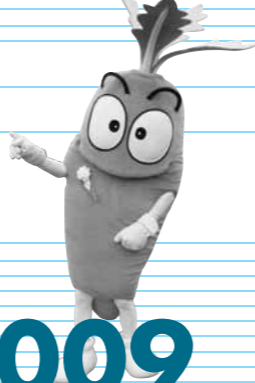




- ①ジュースを高く高く積み上げようとする参加者
- ②重い人参の袋を力いっぱい引っ張り上げます
- ③司会者のMEGさんと英太郎さん
- ④屋久島町のとびうおのすり身揚げコーナー
- ⑤ホリさんお得意の木村拓哉さんのものまね披露
- ⑥「三九九州新幹線さくら」に乗車する子どもたち
- ⑦魚つりを楽しむ子どもたち

# すぎなみフェスタ2009

今年も盛り上がりました!



鼻ぐり井手

1608年、加藤清正によって広大な火山灰台地の畑地を水田に変え、生産力の増加を目的に築造される。「鼻ぐり」という珍しい名称は、牛の鼻の穴に似ていることが由来といわれている。

全長400メートルにおよぶ鼻ぐり井手には、鼻ぐりを通る水の力を利用して火山灰(ヨナ)を下流へ押し流す仕組みや、水量の調節のために分水路が設けられており、安定した通水量を保てるような優れた機能が備わっている。これは全国でも例がなく、他の場所で見ることができない。

清正が整備した当時は80数カ所あったが、現在は24カ所を残すのみとなっている。

# 鼻ぐり井手祭

11月14日、菊陽杉並木公園スポーツ広場で、すぎなみフェスタ2009が開催されました。

今年も総合司会にテレビやラジオでおなじみのMEGさんと英太郎さんのコンビが登場。息のあった最強コンビは会場を盛り上げてくれました。

ステージでは、DOYO組の二人が美しい歌声で子どもたちの大好きな童謡を披露。お笑い芸人ホリさんによるものまねお笑いライブでは、木村拓哉さんをはじめ、多くのものまねで会場を爆笑の渦に巻き込みました。

また、子どもたちに人気だったのが、「三九九州新幹線さくら」。長蛇の列ができるほどでした。

出店・展示ブースでは、本町と姉妹都市盟約を結んでいる鹿児島県屋久島町の特産品試食・試飲コーナーや、農業、食、環境、健康、子育てなどに関することを体験・学習できるコーナーも数多くあり、たくさんの行列ができていました。

今年も子どもから大人までたくさんの方たちで大盛況のすぎなみフェスタでした。

「玉取り」を演じた南小学校児童  
左から  
おくむらまお 奥村真央さん  
おくむらゆま 奥村友菜さん  
こうづますずね 上村光麗さん  
うえむらひかり 上妻紗音さん



白菊園すみれ組21人による遊戯「よさこいソーラン節」  
元気なかけ声をかけ、堂々と踊っていました。

豚汁やからいもの天ぷらなど、おいしい昼食を食べ、会場はたくさんの方の来場者でにぎわいました。



南小学校4・5年生による鼻ぐり井手の劇  
「鼻ぐり井手は私たちの宝です!」と声をそろえて発表しました。



今年も開催された「鼻ぐり井手祭」。10月18日は天候にも恵まれ、町内外から訪れた多くの来場者でにぎわいました。

主催の南部町民センターでは、6つの団体のステージ発表が行われました。観客に指定されている馬場桶の獅子舞をはじめ、白菊園の園児たちによる元気いっぱい、白菊園の園児たちによる元気いっぴいの歌やソーラン節、南小学校児童による鼻ぐり井手築造の寸劇が行われました。

また、熊本大学の山尾敏孝教授と地域代表者などによるパネルディスカッションなどが行われ、鼻ぐり井手について理解を深めました。

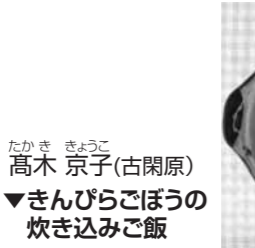
また、外会場では豚汁や加工品の販売などがあり、家族や友人同士で食を楽しんでいました。

鼻ぐり井手公園会場では、鼻ぐり井手底探検が行われました。探検者はボランティアガイドから詳しい説明を聞きながら井手を散策し、写真を撮ったり壁を触ったりして、400年間の歴史を肌で感じていました。また、武蔵剣豪太鼓による演舞も披露されました。

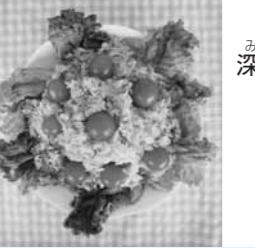
今年も町が誇る鼻ぐり井手を大勢の人に知ってもらえることができ、祭りは盛り上がりしました。



▲春巻きおにぎり  
木村 鏡子(井口)



たかき きょうこ 高木 京子(古閑原)  
▼きんぴらごぼうの炊き込みご飯



▲お好みごはん  
深山 君子(あさひヶ丘)



みやま みな 深山 美奈(上津久礼)  
▼旬なごはんバーガー



▲野菜のリゾット  
ふるかわ 古川 りえみ(光3町内)



米・コメレシピ優秀作品表彰  
※敬称略。レシピは健康保険課保健予防係でお知らせいたします。